

基礎ゼミ

奮闘記

K I S O Z E M I

基礎ゼミのねらい：一年生教育の充実

今回の学部の改組、そしてカリキュラムの大幅な見直しの中で、一年生教育の充実の必要性が強調された。今年度から本学部で開講された基礎ゼミは、その具体化のひとつである。

この基礎ゼミの目的は何か。まず学業面では、学生が主体的に学ぶ姿勢と方法を身につけるということを重視している。単に与えられたものをこなしていくのではなく、自ら問題を発見するというにはじまり、その問題をどう把握すればよいのか・その把握したものを他者にどう伝えるのか・あるいは立場を変えて、他者の意見や考えをどう受け止めるのか等々を考え実践する。そのことを通して、大学で自分の問題意識を獲得し、「何のために学ぶのか」「どう学ぶのか」を身につけることにある。

基礎ゼミの進め方は様々だ。テキストを使う教師もいれば使わずに毎回学生の関心のあるテーマを扱っているゼミもある。いずれにせよ担当教師の専門性・個性が発揮されて、様々な(表1参照)テキストが使われたり、多様なテーマ(構造改革、環境問題、社会保障、イラク戦争、教育問題、等)でゼミが進められている。但し、共通するのは、毎回レポーターが報告をした後に、ゼミ員全員で討論し認識を高めようということだ。学ぶというのは個人的な作業ではなく協同の作業であり、この基礎ゼミの場では、その実践が図られているのである。

学業以外の面でいえば、仲間づくり、そして大学生活をどうやって充実させていくかということを考え実践する場のひとつに基礎ゼミを位置づけている。大学に入学して生活の急激な変化にとまどうことがあっても大丈夫。基礎ゼミは、学生10人強に対して教師1人のサポートという構成なので、教師との距離も近くいろいろと助言を受けることも容易なのだ。

表1 基礎ゼミで使われているテキストの例

- 佐藤 学『「学び」から逃走する子どもたち』
- 岩田規久男『経済学を学ぶ』
- 鷲巣 力『自動販売機の文化史』
- 植田 和弘『環境経済学への招待』
- 神野 直彦『地域再生の経済学』
- 西村 和雄『学力低下が国を滅ぼす』
- 刈谷 剛彦『大衆教育社会のゆくえ』
- 池上 彰『そうだったのか！現代史』



失敗もあれば苦悩もあるさ

さて以上のように基礎ゼミのねらいを書いたが、基礎ゼミは今年度から開講されたばかりのものなので苦悩はいろいろある。設備がまだまだ十分ではないという問題にはじまり、学生の関心がばらばらなので応えきれない、さらに、学生の主体性を期待しているはずなのに学生が静かなために授業が「寒い」(!)ときがある、などだ。もっとも、この学生の姿勢についていえば、大学に入るまでこうした主体的な学びを体験してこなかったことが大きいわけであるし、学生の主体性をひきださきれていない教師の力不足も一因としてあるかもしれない。そのあたりは改善の余地ありである。

学生はどう評価しているかな

ではここで、学生がこの基礎ゼミをどう評価しているのか聞いてみよう。

- 日本が抱えている、自分たちに親密な問題を具体的に話し合えるし、わかりやすいからヤル気が出て、よい気がする。テーマを面白くすれば、なお良いと思う。
- 今まで経験したことのない授業のスタイルで色々な人の意見が直接聞くことができ、自分では考えられないようなことを教えられたり、新しい発見や新しい考え方が身についたりしたと思う。日本の教育では少なかった対話、討論を交わす授業スタイルが新鮮な感じがして面白い。
- ゼミの今の状況はまだまだ発言が少ないと思うのでテーマをもっと皆の関心のあるものにすればいいと思う。高校ではなかったディベート形式の授業は非常にすばらしいと思う。自分としてはディベートの能力をもっと高めていきたいので、その面からももっと皆が発言してくれるようなテーマを求める。
- 普通の授業、講義とは違って建設的な話し合いができるので面白い。良い授業だと思います。
- 基礎ゼミで色々な意見を言い合う場所を用意してくれたことは非常に良い事だと思うが、なかなか自分の意見が出て来ない。まだまだ知識不足と経験不足。なぜ、自分はこの事態や意見についてそう思うのか、考える場、時間をもっとふやしてほしい。基礎ゼミだけじゃなくて、何かを体験するとか、色々な方法の授業を受けたいな。
- 今までの基礎ゼミの授業は、目的の通りにはいっていないと思う。みんな静かだし、なにか暗い、変な緊張感みたいなものがある。もっと楽にどんなことでも発言できるような雰囲気づくりが必要だと思います。そのためにはもっと一人ひとり積極的に参加することが必要だと思います。
- 日常生活の中で、会話として取り扱わないような諸問題をテーマとして討論することはとても良い事だと思う。普段は遠く感じる諸問題についてあれこれと考察できるだけではなく、お互いの違った価値観を認め合ったり、指摘しあったりできるからです。ただ高校は、基本的に大学受験のために暗記を強いてきたので、いきなりレジュメを書いてと言われてもすんなりとはできないところがあります。
- みんな初体験だと思うから静かなのかもきれいな。もうちょっとみんなの関心があるテーマだと少しはにぎやかになるかも…。
- テキストが自分の生活と遠いというか、そういう社会ににいるということでは理解できるが、あまり直接関わらないので興味があまりわいてこない。学生の好きな興味のあるテーマをみんなで討論できたら楽しいし、そのほうが意見も出やすいと思う。
- 最初はやり方がわからないし、人の前で発表は苦手でもやりたくなかったけれど、やっていくうちに自分の好き勝手にできるし、人前で話すのも少人数でみんな知ってる人だから普通にできるようになった。これから社会に出て必要なことだから、今のうちに慣れておきたい。
- やっぱりまだ慣れない部分もたくさんあるから、うまく意見を出せないですね。私は基礎ゼミで扱っている内容は興味があるものばかりなので、いいと思います。普段このような内容について真剣に考える機会がないので、基礎ゼミはそういった部分でもとても有益な時間だと思います。少しかたいぐらいの内容でもいいと思いますねー。いずれ私たちが考えていかなきゃいけないものだと思うので。

手を変え品を変え、基礎ゼミはゆく

ゼミで扱うテーマ、教師の指導のあり方、授業に臨む学生の姿勢、等々、改善の余地はたくさんあるようだ。とはいえ、高校までこういう形態の授業を受けてこなかった割には、わずか2・3カ月で、だんだん授業の雰囲気がよいものになってきている、というのが教師の共通した感想だ。いずれにせよ、こうした学生の率直な意見を取り入れながら、我々教師は、いろいろと策をもって授業にのぞんでいるところだ。例えば、

- ゼミを盛り上げるためのネタを前もってレポーターと一緒に練り上げてゼミにいとむ
- ゼミ内にグループをつくりグループ単位で発言させるなど意見を言いやすい雰囲気をつくる
- ゼミを盛り上げるワザを教師同士で共有したり、ゼミでコンパ・懇親会・スポーツ大会をひらく
- 基礎ゼミ発表会などゼミを超えて学び合い、交流する
- 教室をでて調査活動を通じた学びを実践する…等々である。

こうした奮闘(労苦?)が示すとおり、基礎ゼミ自体が教師と学生の協同で創造されてゆくのであり、基礎ゼミはどこまでも発展の可能性をもっているのである。

Let's join 基礎ゼミ!!